

1	問1	エ	問2	half			hour			問3	イ
	問4	with			問5	ア	問6	(6)	ウ	(7)	イ
	問7	地	上	に	降	り	る	た	め	の	ボタンを傘に取り付けるのを忘れた。
	問8	イ	カ								

対話文読解問題

[全訳]

アルバート市に一人の風変わりな科学者がいました。彼の名前はロビン・モーガンとい
いました。彼はアルバート大学の教授で、そこで科学技術を研究していました。

6月のある日曜日の午前のことでした。モーガン氏と彼の妻のジャネットは居間にいま
した。モーガン氏はソファに座り、新聞を読んでいた。ジャネットは窓から外を見て
いました。

ジャネット： 外を見て！今日は雨は降っていないわ。セントラルパークを散歩しましょうよ。

モーガン氏： うん、そうしよう。空に雲があるね。僕は自分の大きな傘^{かさ}を持って行くよ。

ジャネット： まあ、あなたはとても心配性ね。天気予報では、雨はしばらくは降らないと言っ
ているわ。

モーガン氏：僕はその天気予報を信じていないんだ。ずぶ濡^ぬれにはなりたくないだろう？

モーガン氏とジャネットは1本だけ傘を持って家を出ました。二人はセントラルパークを30分
ほど散歩していました。

モーガン氏：空を見なよ。とても暗くなってきたぞ。雨が降りそうだ。

ジャネット： そのようね。あなたの言ったことが正しかったわ。急いで家に帰らなくちゃ。

突然、大雨が降りました。モーガン氏は自分の傘を開きました。彼は妻と合い傘をしました。
ところが、二人はびしょ濡れになりました。

ジャネット：（怒りながら）ああ、何てことなの！あなたの傘にはいっぱい穴が空いているわ！
役に立たない傘ね！

モーガン氏： その傘は10年前に買ったものだ。最近使ってなかったな。ごめんよ。

モーガン氏とジャネットは家に帰りました。二人の服はたっぷり濡れていました。ジャネットは
急いでドライヤーで髪を乾かして、服を着替えました。しかし、モーガン氏は服を着替えずに考え
事をしていました。

ジャネット： 何をしてるの？服を着替えなさい。風邪引くわよ！

モーガン氏は黙ってまだ考え事をしていました。そして、1つのアイデアが浮かびました。

モーガン氏： （誇らしげに）僕は科学者なんだ，だから特別な傘を発明する義務がある。
その傘は多くの人たちに役立つものになるだろう。ノーベル賞も夢じゃないぞ！
ジャネット： あなた頭大丈夫？ 熱があるんじゃない？

モーガン氏は自宅の仕事部屋に入りました。彼はそこに約 10 時間籠^{こも}って，特別な傘を発明しました。深夜に彼はその傘を持って外に出て，それを試しに使ってみることにしました。ボタンを押すと傘が開きました。それから彼は空中に舞い上がり，空を飛びました。

モーガン氏： ああ，素晴らしい！この傘を使えば車も列車も必要ない。交通事故やラッシュアワーもなくなるだろう！

モーガン氏は2時間ほど空を飛びました。空は明るくなってきました。

モーガン氏： もう朝だ。家に帰って朝食を食べなきゃな。それから大学に仕事に行かなくちゃ。地上に降りよう。ああ，大きな失敗をしてしまったぞ！もう1つボタンを取り付けるのを忘れた。家にも帰れないし，再びジャネットに会うこともできないぞ！

モーガン氏は空高く飛び上がりました。彼は宇宙に行ってしまうのでしょうか。いや，それはあり得ません。